

従業員満足度アップに力を注ぎ 「労働時間削減」と「給料アップ」を実現

千葉県千葉市、幕張新都心のほど近くに本社を構える田岡運輸(株) (田岡宏久代表取締役) は、「物流の 2024 年問題」への対応が叫ばれる中で、ドライバーの働き方改革を加速。それとともに荷主との運賃・料金交渉を積極的に行い、「ドライバーの労働時間削減」と「ドライバーの給与手取り額アップ」を実現してきた。

田岡社長は、厳しい局面においても自社の経営を守っていくために、会員事業者に対して千葉県トラック協会のさらなる活用を訴えている。



加工食品の輸送に当たる4トントラックの前でガッツポーズを見せる田岡社長

■雇用維持に欠かせない「ドライバーの賃上げ」 荷主との関係を深め原資獲得に挑む

田岡運輸(株)は、田岡宏久社長の祖父が昭和 32 年に千葉市に設立した運送会社で、設立当初は飼料の輸送を中心としていた。また、東京湾で漁業権を取得したのを機に、地元産の海苔やアサリなどの輸送を手がけるようになった。その後、40 年代にかけて東京湾沿いの埋め立てが進み、同社が漁業権を持っていた場所も埋め立てられたため、56 年に現在地に本社を移転。2 代目社長 (田岡社長の父) の頃には、トレーラーや 10 トン平ボデー車を導入し、鋼材輸送にシフトした。ただ、鋼材は輸送量の波動が大きかったことがあり、平成 20 年に3代目社長に就任した田岡社長は、安定した輸送量が見込める加工食品輸送に切り替えた。現在は、本社営業所と山武営業所 (山武市) の2拠点体制で、同社と長年取引のある加工食品メーカーのカップラーメンのほか、印刷物や飲料水、健康食品などを輸送している。

「当社では設立から現在に至るまで、家具や豆腐など様々な輸送にチャレンジしてきましたが、自分が運びたいものに絞って、可能な範囲で業容拡大に努めてきました。カップラーメンなどの加工食品は、大規模な地震災害の際に重要な役割を果たします。今年 1 月に発生した令和 6 年能登半島地震においても、被災された方々の命を守るために発生翌日から情報収集を進め、緊急物資輸送に当たりました。また、人間が口にするものを輸送するため、いい加減な対応では決して務まらないと思います。やりがいがあって誇りが持てる加工食品輸送の魅力を当社の従業員に積極的に発信し、ドライバーの働きが向上に結び付けています」(田岡社長)

カップラーメンの輸送では 1 日に 1000 ケースを運ぶこともあるが、現在も着荷先においては手荷役がほとんどであるという。同社のドライバーが誇りをもって日々の業務に当たっているからこそ、負担の大きな手荷役にも負けずに輸送を続けることができるのである。

さて、「物流の 2024 年問題」への対応が叫ばれる中、同社でもドライバーの働き方改革を進めている。田岡社長は「従業員のみんなに趣味を持ってほ

しい」と考え、ドライバーのワーク・ライフ・バランスへの取り組みに注力している。

かつて同社のドライバーは早朝 3 時から 4 時の間に出社し、午前と午後の 2 回輸送を行い、夕方 5 時過ぎに退社するという勤務体制だった。しかし、これではドライバーが自宅に帰っても寝るだけとなってしまい、自分の時間をもつことがほとんどできていなかった。そこで同社では、将来的にドライバーの時間外労働を年 720 時間未満にすることを見越して、午後便の輸送を取り止め、昼にはドライバーが帰宅できるようにした。これにより、ドライバーは昼以降の時間を自由に過ごすことができるようになり、従業員満足度が高まったという。

一方で、労働時間が減ったことでドライバーの給料の手取りが少なくなってしまうと、退職者増に繋がり、輸送を維持できなくなってしまう。そこで同社では、荷主との運賃・料金交渉を実施。交渉に際しては、千葉県トラック協会事務局から交渉のテクニックを学んだり、資料の提供を受けた上で、交渉に挑んだという。同社では交渉の結果、運賃 8% アップを勝ち取り、それを原資としてドライバーに還元していくとしている。なお、同社では毎年 4 月に雇用契約書を作成し、賃金や労働時間、休日などを明確化した上で、ドライバーに手渡している。

「ドライバーは横の繋がりが強く、同業他社のドライバーも含めてみんな顔見知りというところがあります。もし当社の給料が他社よりも安ければ、その情報がドライバーに広く伝わってしまい、当社の事業を支える貴重な人材が他社に流出しかねません。物価高が続いている現状において、雇用を維持していくために、賃上げは欠かせないものだと考えています。荷主と交渉を行うにあたっては、千葉県トラック協会を活用させていただきながら、先



田岡 宏久 代表取締役



カップラーメンをフォークリフトで積載。スーパーや問屋などの着荷主先では手荷役が求められる



田岡社長はドライバーのワーク・ライフ・バランスを大事にするとともに、従業員にとって居心地の良い会社づくりに努めている



コロナ禍を機に、荷主との会議をリモートに切り替えて頻度を上げたことで、荷主との信頼関係醸成に繋がった

の先まで考えて対策を取るようになりました。『どのように荷主と交渉したらいいのかわからない』などと、荷主との交渉に及び腰になっている会員事業者も散見されますが、運賃交渉のノウハウを教えていただける千葉県トラック協会を活用しようとしなのは本当にもったいないことだと感じています。もっと積極的に千葉県トラック協会に相談して、ドライバーの賃上げに繋げていただきたいと考えています」(同)

また、同社では近年、荷主とのコミュニケーション良化に向けた取り組みも進めてきた。

同社の主要取引先である加工食品メーカーは、東京都内に本社があり、かつては荷主との物流会議は年間数回程度に留まっていた。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、同社では荷主との会議をリモートに切り替えるとともに、毎月30分程度会議を行うようにした。会議の頻度が上がり、荷主との意思疎通が十分に行えるようになったことで、荷主から輸送に関する様々な要望が寄せられるようになり、荷主と二人三脚で輸送改善に取り組むことができていくという。

同社には現在20人のドライバーが在籍している。最高齢は68歳のドライバーで、運転技術が高く、仕事も丁寧で、同社の「ドライバーの鏡」として日々奮闘しているという。また、女性ドライバーも3人在籍している。なお、同社ではプロドライバーとして長く働き続けることができるよう、個々のドライバーに配慮した働き方を取り入れている。加工食品輸送の場合は、埼玉県八潮市や草加市までの輸送もあり、100kmほどトラックを運転する必要があるが、印刷物輸送であれば千葉市新港までの輸送となり、運転距離は30km程度で済む。そのため、例えば高齢ドライバーは負担の少ない印刷物輸送に当たってもらうなど、適材適所に応じた人員配置を心がけるようにしている。

そして、ドライバー同士の絆を深めるために、バーベキューや食事を実施したり、山武営業所では餅つき大会なども行っている。

同社における様々な取り組みが功を奏し、同社では従業員の定着率が高く

なっているという。

さて、同社では事故防止に向けた取り組みも進めている。毎月実施しているミーティングでは半年ほど前から、ドライバーに事故防止に関する動画を見せられ、それに対する意見を集約した上で、翌月にその結果を発表し、事故防止実現に向けて情報共有を図っている。この動画は、ミーティングで配布しているテキストの二次元コードを読み取ることで、ミーティングの時だけでなく、荷待ちの際の空き時間や自宅などでも見ることができるようになっている。運行の都合によりミーティングに出席できなかったドライバーにはテキストを渡し、動画を見せようようにしている。

田岡社長は大学4年生の秋に、先代社長から主要取引先である加工食品メーカーへの出向を命ぜられ、同荷主の運送・倉庫業務を担うようになった。そこでは、配車マンやドライバーとして物流業界の経験を蓄積した一方、夜中まで会議漬けの日々を送り、諸先輩方から物流の仕事や世の中のことなどをいろいろと教わったという。かつて同荷主では、営業部門や製造部門に比べて物流部門の地位が低かったが、田岡社長の奮闘の甲斐もあって、現在では物流部門も他部門と肩を並べるまでに地位を高めることができたという。その後、30歳になって印刷会社に出向し、そこでも荷主との太いパイプを構築。44歳の時に、田岡社長は同社の3代目社長に就任した。

60歳を迎えた田岡社長には1人の息子と1人の娘がいる。息子は現在26歳で、同社で配車マンやドライバーとして業界の経験を積み始めた。また、娘はプロサーファーとして活躍する一方で、運行管理者資格も取得したという。

「将来の4代目にしっかりと事業承継していくためには、4代目を支えてくれる従業員の若返りが必要だと考えています。『物流の2024年問題』に直面する中で、運送事業者にとっては厳しい局面を迎えています。次世代の経営者にスムーズにバトンタッチできるよう、今後も様々な取り組みを進めていきたいと考えています」(同)

ホットにゆーす

20歳の時に始めたサーフィン 40年来の息の長い楽しみに

田岡社長は20歳の頃にサーフィンを始め、かつてはバリやオーストラリアの海で波と親しんでいたという。60歳になった現在でも、毎週日曜日には太東(いすみ市)でサーフィンをやるほか、全日本選手権にもエントリーしているという。

「豊かな自然の中で行うサーフィンは健康に良く、ストレス解消にも繋がります。また、四季を感じることもできるため、これからもサーフィンを続けていきたいと考えています」(同)



千葉の海でサーフィンを楽しんでいる田岡社長

企業プロフィール
田岡運輸有限会社
代表取締役 田岡 宏久
本社 千葉県千葉市美浜区浜田2-34-1
従業員 25人(うちドライバー20人)
台数 20台